インクルーシブ教育で幸せな教育環境を！

3年4組20番　城村　花心

目次

１．はじめに
・研究動機

２．序論
・目的（問い）
・先行研究
・資料と方法

３．本論
・結果と分析
・考察

４．結論
・まとめ（要約）
・今後の課題

５．おわりに
・自分自身の変容
・これからどう生きていきたいか

６．参考文献・出典

１．はじめに

私は将来教育現場に携わろうと思っています。インクルーシブ教育は、段々と推進されています。そのなかで、教師には柔軟な対応ができて、広い視野を持って働くことが求められています。これらのスキルを身につけるために、研究してきました。今後、日本でインクルーシブ教育を取り入れるために、どのような準備が必要になっているのでしょうか。どこを見直したらより良いものになるのでしょうか。私にできることを伝えていきたいです。

２．探究の目的

目的:インクルーシブ教育が普及している社会で働くことを考えたときに、私自身が理解し　て行動できるようになることです。また、保護者や教師、子供たちにインクルーシブ教育　の理解度を高めることです。

方法:ウェブサイト、文献

ゼミ内での発表でインクルーシブ教育という政策に出会い、興味を持って調べ始めました。先行研究をはじめとした文献と、私の経験を含めてこれから必要な準備について考えていきます。

3.インクルーシブ教育の課題と解決策

インクルーシブ教育はまだあまり進んでいません。その原因が何なのか、説明します。まず、インクルーシブ教育とはどのようなものなのでしょうか。インクルーシブ教育とは、すべての子どもたちがそれぞれの違いがあることを理解し、多様な子供たちに応じた教育を行う（対応する）ことです。日本の教育を振り返ると、分離教育から始まり、インテグレーション教育、インクルーシブ教育となっています。私は、共生社会の形成に向けて、障害のある子供たちだけでなく、すべての子どもたちを排除せずに包み込む必要があると考えました。ですが、現状、インクルーシブ教育の普及はイマイチです。原因として考えられることとして、2点上げます。一つは、施設の整備（校舎の整備）が不十分であることです。インクルーシブ教育では、もちろんさまざまな事情を抱えた子も学びます。そのためには、エレベーターやさまざまな教室など、多くの施設が必要とされます。二つ目は、子供同士の理解です。幼児、児童の間は多くの新鮮なことに触れる期間になります。保育や教育のなかで子供間でお互いの違いを認め合えるようにすることまで教えられる状態ではないことも考えられます。この2点について、詳しく考察してきました。
まず、施設の整備について詳しく説明します。この問題は、余裕教室の活用によってかなり解決につながると考えました。少子化の影響で、校舎内には余裕教室が増加している傾向があります。（図１．文部科学省）そのため、それらをうまく活用すれば、インクルーシブ教育に対応できます。みなさんは、家のリフォームでエレベータの取り付けの話を聞いたことはありますか？家の場合、収納や吹き抜けの部分を活用して取り付けています。もし一階と二階の上下で余裕教室があった場合、教室の一角をエレベーターとして活用できます。車椅子を使用している生徒でも、行き来が可能になります。また、余裕教室をさまざまな教育スタイルに対応した一室にすることもできます。
つづいて、子供同士の理解についてです。人間は、成長するにつれて、それぞれの違いを理解していきます。しかし、それでは幼児や児童にむけてのインクルーシブ教育はうまくいかないでしょう。幼児や児童は、とても繊細であるため、教育においても慎重に行う必要があります。その中で個々の違いを、赤ちゃん言葉で言う『悪いもの』と感じさせないようにするには、どうすればいいのか考察しました。ここで重要になってくるのは、教育者を含む、保護者の伝え方だと思います。幼児期や児童期のうちは特に、子供たちは五感で感じて学んでいきます。なので、なるべく丁寧な言葉で、なおかつ否定をしない過ごし方を心がけることが重要なのではと考えました。取り入れやすいカリキュラムとしては、絵本の時間を設けることです。いわゆる、読み聞かせです。幼児たちに物語の出来事について尋ねたりしながら読み聞かせをすることで、理解が深まる可能性があります。具体的な例として、かっくんという絵本があります。このような、多様性について学べる絵本で園児たちの理解を深めます。年齢が大きくなるごとに、多様性の範囲を広げていくような形で絵本を取り入れると、園児たちに難しいと感じさせないと思います。
これまで、インクルーシブ教育の推進にあたって必要なことについてあげてきました。しかし、上記のようなことは、今の私にできることではありません。費用や、直接的に教育に関わっていくことになるからです．そこで、私ができることは何か考えました。それは、今後も学びを深めることです。現状、教育について明確になっていないので、今後行動を起こせるように個人で学びを深めていきます。進学後、教育を学んでいく中で、幅広いことに挑戦したいと考えています。やってみたいこととしては、絵本の紹介を行い、どこかの機会で読み聞かせをしてみたいと思っています。図書館やボランティア、進学後の実習などで経験を積み重ね、自分にとっても、インクルーシブ教育にとってもいいものを考えています。
4. 結論
インクルーシブ教育の推進に向けての課題は私が考えている以上に多くあると思います。今回は、2点あげました。その解決方法として余裕教室の活用や、すぐに取り組めるようなカリキュラムなどを提示してきました。推進にあたり、私ができることは今後教育についてさらに学びを深めることです。将来に向けて、正しい知識、そして行動力を身につけて活動していく必要があります。今日は「国際社会」、「多様性」といった言葉をよくききます。多様性を重視した社会になっている中で、インクルーシブ教育の推進は重要なものになってくると思います。

5. 終わりに

教育の現状を知ったことで、自分がするべきことを明確にすることができました。具体的には、もっと教育について学ぶことです．将来、教育現場に携わる者として、事前に学ぶことができたことは今後の自信につながりました。また、一年生の頃に比べて､幅広い視野を身につけることができました。今後、もしかしたら教育革命が起きて、さらに新しいものが推進されるようになるかもしれません。そんななかでも、柔軟に対応していけるように取り組みたいという気持ちを持つようになりました。実習でも、柔軟に対応できるようにこの探求を活用していきたいと思います。